

未来そうぞう科学習指導案

2 年 2 組 岩崎 千佳

1. 単元名 C 領域 「ヒメちゃんと いっしょ」
2. 研究主題との関連
- 3.

未来を「そうぞう」する子どもを育成するためのカリキュラム開発

(1) 単元について

2 年生は昨年度、未来そうぞう科の学習で、ミニチュアホースの「ヒメちゃん」を飼うことを決め、飼育を始めた。飼いたいという自らの思いと、飼う上で必要とされる責任を感じながら、昨年 1 2 月から飼育を続けてきた。ヒメちゃんは自分たちの学校に入学してきた仲間でありつつも、人間と馬という違いがある。初めの頃は、自分たちの嬉しいことはヒメちゃんにとっても嬉しいという考えであった。しかし、世話をする中で、自分たちにとってよいことがヒメちゃんにとってもよいとは限らないと気づき始めた。その中で、ヒメちゃんの「梅雨の時期の過ごし方」や「夏の過ごし方」など、ヒメちゃんにとってのよい環境について考え、活動を進めてきた。今や、ヒメちゃんは、1 2 3 期の子どもたちにとって、愛着のある大切な存在となっている。

しかし、3 年生に向けて、使用する運動場が北運動場が変わるため、今までのようにお世話ができなくなるという問題が出てきた。そこで、今後のヒメちゃんの世話をどうするかについて、前単元「ヒメちゃんのこれから」で考えた。2 年生としては、続けて世話をしていきたい。しかし、このまま 1 2 3 期だけが世話をし続けていくと卒業と同時にヒメちゃんにとっての育ての親が急にいなくなる。それはかわいそうである。しかし、お世話を順に下の学年に引き継いでいくと、世話をしてくれる人が増え続ける。やがては、全校児童皆がヒメちゃんにとっての育ての親となる。このような中で、自分たちが育てたい思いはあるが、ヒメちゃんのことを考えるならば、世話を 1 年生に引き継ごうと決心した。

前単元「ヒメちゃんのこれから」では、1 年生がヒメちゃんの世話をしたいと思えるよう、まずはヒメちゃんを好きになってもらおうと考えた。そこで、ヒメちゃんのことを詳しく知れるクイズを考えたり、お世話体験をしたりなど、2 年生なりに工夫して活動を進めてきた。その結果、1 年生から、「ヒメちゃんのお世話をしてみたい」という反応が返ってきた。

本単元「ヒメちゃんといっしょ」は、実際に 1 年生がヒメちゃんと向き合い、関わり合うところから始まる。好きだけでも、触るのはこわい。大きくてこわい気持ちはあるけれども、もっと関わってみたい。様々な思いが生み出されることが考えられる。2 年生にとっては、昨年の自分を見るように感じる部分も多いだろう。うまくいくこと、いかないこと、自分たちも経験してきた道である。ヒメちゃんと向き合う 1 年生に、今まで試行錯誤してきた経験がある 2 年生だからこそ、歩みよれる部分があるのではないかと考えた。本時では、活動をしてきた 1 年生の生の声を聞く時間を設定する。その中で、1 年生の葛藤や素直な思いを聞くことで、自分たちの経験が想起されるだろう。1 年生との関わりを通して、「ヒメちゃん」という対象にとってのよりよい未来のために、2 年生なりに工夫して活動を進められる創造的実践力を育んでいきたい。

(2) 単元の目標

【創造的実践力】	
・ヒメちゃんのよりよい未来のために、これまでの学びや経験を思い出しつながら、自分なりに工夫し、考えたり活動したりすることができる。	
【主体的実践力】	【協働的実践力】
・ヒメちゃんに関心を持ち、これまでの学びや経験を思い出し、課題解決に向けて楽しんで活動することができる。	・友だちや 1 年生の自分とは違う思いや気付きを知り、1 年生といっしょに働きかけることができる。

(3) 活動構成の仮説

○これまでの発信の対象であり、自分たちと同じような経験を現在している1年生から「リアルボイスタイム」として生の声を聞く機会を設定する。それによって、これまでイメージ・クリエイトの往還の中で経験してきたことが想起され、過去の経験とのつながりを見出し、互いの意見の違いを大切にしながら、1年生に寄、ヒメちゃんにとってのよりよい未来について考える創造的実践力を育むことにつながる。

2年生にとって、前単元までは、1年生に向けての発信を行ってきた。本単元では、1年生がその発信によって、ヒメちゃんにとってのよりよい未来に向けて動き出すこととなる。その中で、活動したからこそ出てくる1年生の生の声を聞く「リアルボイスタイム」を設定する。自分たちの発信相手であった1年生、また1年前の自分たちと同じような経験をしている1年生。その生の声は、今までヒメちゃんのよりよい未来のために試行錯誤しながら進んできた経験のある2年生だからこそ理解できることがあるはずだ。この1年生の生の声を聞く機会があることで、互いの意見や思いの違いに気付き、過去の経験を活かしながら、ヒメちゃんにとってのよりよい未来のために、自分たちの活動をより一層前に進めていくことができると考える。

3. 指導計画（全10時間 本時6時間目）

必修

選択

毎時

教師のすること

学習活動と問題意識	子どもの意識	評価の視点と方法			
		① 没頭	② 協力	③ 見通し	④ レジリエンス
<p>1. ヒメちゃんのお世話の仕方を一年生に伝えよう！【5時間】</p> <p>・フリータイムや昼休みに、実際に1年生にヒメちゃんのお世話の仕方を伝える。 →ヒメちゃんのところに行って実際にお世話を体験してもらったり、必要であれば、未来そうぞう料のモジュールタイムや45分の活動時間の中で、伝えるべきことを伝え、1年生だけでもお世話を進められるようにしていく。</p> <p>・お世話する中で1年生の感想や、困ったり悩んだりしていることなどを聞き、集めておく。 ・自分たちの1年生の時を思い出しながら、どんなことに困っていたか、どんなことが不安だったかを思い出し、1年生に向けて発信することを工夫する。</p> <p>2. お世話を体験してみよう。1年生の声を聞いてみよう。【5時間】</p> <p>・実際にヒメちゃんのお世話の体験をやった1年生から、話を聞いてみる（本時） →お世話をしてみようの1年生の正直な気持ちを聞く。2年生自身も自分の過去の経験を想起しながら、1年生と、ヒメちゃんのよりよい未来に向けて、今後どのように進めていけばよいか考える。</p>	<p>1年生はお世話をうまくできるかな。心配だな。</p> <p>お世話するときには何をやるかわかりやすく伝えたいな。</p> <p>ふんをとるのをいやがったりしないかな。休み時間間に合うかな。</p> <p>雨が降った時のことも伝えてあげないと。後ろには立たないことも思ったよりも楽しんでくれているな。ヒメちゃんも喜ぶな。</p> <p>今日は1年生、間に合わなくてこれなかったな、そんなときはどうしよう、2年生でしたらいいかな</p> <p>お世話より外で遊びたいって言うていたな。ヒメちゃんかわいそう</p> <p>やっぱりもっとお世話したいな。これで終わるのはさみしいな。</p> <p>私も去年はこわいって思っていたな。だんだん慣れてくるよ！</p> <p>ひめちゃんのことを好き、楽しいっていつてくれて嬉しいな。</p> <p>休み時間がなくなるのはいやなのはわかるけれど、いやいやお世話させるのはヒメちゃんかわいそう。僕だってお世話したいのに。</p>	未来ノートへの蓄積			
		<p>姿勢・表情 対象に興味をもって活動に取り組んでいる。 ●関心もち楽しんで活動している（主）</p>	<p>1年生と一緒に お世話をできるようになるために一緒に世話をしていく。 協力して働きかけている。（協）</p>	<p>写真・映像の蓄積</p> <p>1年生のときの写真動画の編集</p> <p>過去を思い出す自分たちが初めて世話した時のことを思い出す。 これまでの学びや経験を思い出している（創）</p>	<p>リアルボイスタイム（1年生の生の声を聞く） 1年生が実際にお世話を体験してみようの率直な思いや意見を生で聞く。 友だちや1年生の自分とは違う思いや気付きを知る（協） これまでの学びや経験を思い出し、関連させて考えている。（創）</p>